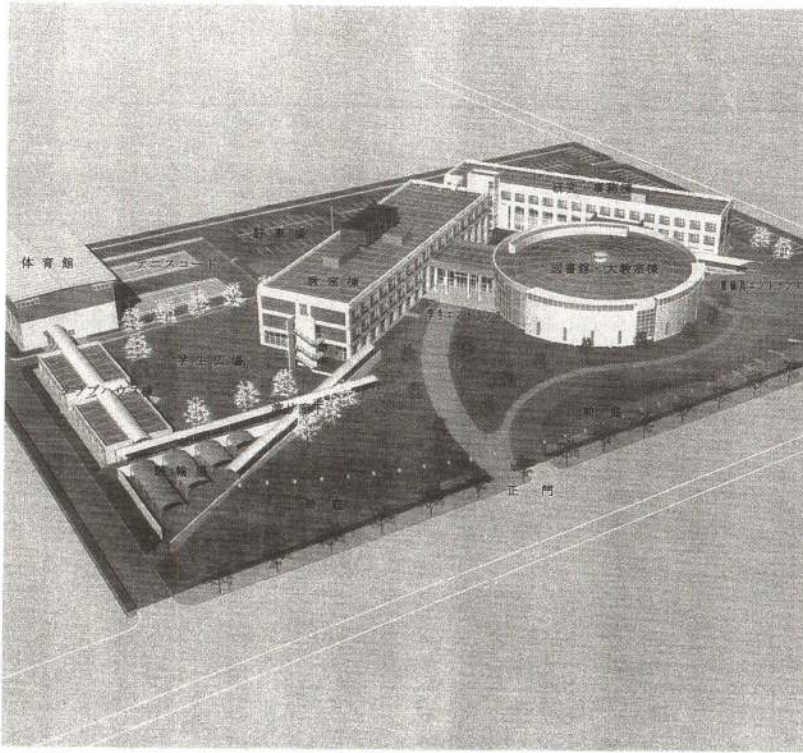


# 桂城短大校舎建設着工

## —8年4月開学目指して—

学校法人・秋田経済法科大学（理事長・佐々木喜久治）は、平成八年四月の開学を目指して、清水二丁目（旧秋田技能開発センター跡）に建設する秋田桂城短期大学の建設工事にかかる入札を行いました。建設地では現在、現場事務所の建設や資材搬入が行われ、いよいよ短大建設工事が始まりました。



秋田桂城短期大学施設完成予想図

### 建設工事が

### 地元企業に落札

秋田桂城短期大学建設工事は、A工区（研究・事務、教室棟建築工事）、B工区（図書館、大教室棟建築工事）、C工区（体育館・クラブハウス棟建築工事）、D工区（外構工事（前庭、池、学生広場、駐車場、駐輪場、テニスコート、運動場など）、E工区（電気設備工事）、F工区（空調・給排水設備工事）の六工区からなります。入札の結果、A、B、F工区は市内の共同企業体（J V）が落札し、C、D、E工区も地元企業がそれぞれ落札しました。（落札額合計三十五億八千八百万円）

### 8月に校舎の外観が姿を現します

いよいよ建設に着手した秋田桂城短期大学は、建築面積が一万二千九七四・二四平方メートル、総事業費約五十二億円（内、市支援分約十億五千万円）です。工期は来年二月までとなっていますが、今年八月には短大の主要施設となる研

究・事務棟、教室棟、図書館・大教室棟など校舎の外観が姿を現す予定です。

キャンパスのシンボルともなる図書館・大教室棟は、「曲げわっぱ」をイメージした直径約五十メートルの円筒形です。緩やかな曲線で描かれる建物は、女子型短大にふさわしい柔和さを表現した設計となっています。また、図書館・大教室棟を挟むように研究・事務棟、教室棟の二棟をV字型に配置してより多くの空間を生み出し、周辺住宅に対して圧迫感を取り除く配慮がなされています。敷地面積約三万平方メートルのうち約二万三千平方メートルを占める外構には、池（面積約六百四十平方メートル、約百五十平方メートルの二つ）や植栽などを配置し、学生はもちろん一般への開放をも考慮して憩いのスペースを確保しているほか、駐車場（約百八十台収容）、駐輪場（百五十台収容）、テニスコート（二面）などが設けられます。

各教室には身体障害者用の机を配置するほか、車いすの回転スペースも設けられるなど人間福祉学科を設置する短大にふさわしく、身体障害者に対しても優しい設計になっています。

開学後、市では市民と密着した学校にしたいということから図書館、体育館、前庭を市民へ開放してくれるよう秋田経済法科大学へ要望しています。

### 設置認可へ向けての今後のスケジュール

昨年十二月、文部省によって第一次設置認可申請が合格判定された秋田桂城短期大学は「教員個人調査」、「職員採用計画」、「設備概要」のほか、第一次申請で提出した「財政計画の再審査」など今年六月に提出される第二次申請の通過と十月の建物審査をクリアして十二月末の最終判定を待たなければなりません。

一方、四月には、秋田桂城短期大学が設置する看護学科卒業によって看護婦試験受験資格を取得できるように、文部省へ「看護婦学校新規指定申請」をすることにしており、また、九月には、人間福祉学科卒業と同時に介護福祉士の資格取得を可能にするため、厚生省へ「介護福祉士養成施設等指定申請」を提出することになっています。

秋田経済法科大学では、これら開学のための準備を円滑に進めるため、四月には大館に事務室を設置して、八年四月の開学に向けて事業を展開していくことにしています。

市では今後、工事の安全面に対する配慮とともに住民生活に支障をきたさないよう秋田経済法科大学、県と連携をとりながら建設を支援していきますので、市民の皆さんのなお一層のご理解とご協力をお願いいたします。